

- 問1 平安時代末期に権力を握った平清盛が行った、対外貿易に関する政策として正しいものはどれですか。 (2018年 愛知県公立入試 類似)
- 現在の神戸市にあたる大輪田泊を修築し、兵庫津を整備して宋との貿易を推進した。
 - 鎌倉に幕府を置いていた北条氏が、対外貿易を統制するために博多に拠点を築いた。
 - 足利義満が明との間で勘合貿易を行い、兵庫の港を幕府の直轄地として整備した。
 - 遣唐使の廃止に伴い、海外との交流を制限するために大輪田泊の機能を縮小させた。
- 問2 日本の歴史において、平将門の乱が起きた後の935年から、鎌倉幕府が成立する1192年までの期間（11世紀初め）に、紫式部によって執筆された文学作品として正しいものを次から選びなさい。 (2016年 茨城県公立入試 類似)
- 土佐日記
 - 源氏物語
 - 平家物語
 - 枕草子
- 問3 11世紀後半から12世紀後半にかけて、現在の岩手県にある平泉を拠点とし、独自の行政と豊かな文化を築いて東北地方を広く支配した勢力の名称として正しいものを選びなさい。 (2024年 静岡県公立入試 類似)
- 奥州藤原氏
 - 伊達氏
 - 多賀城の国司
 - 鎌倉北条氏
- 問4 奥州藤原氏が平泉に中尊寺金色堂のような大規模な寺院を建立し、都の文化を取り入れながら独自の文化を発展させることができた経済的な理由として、最も適切なものはどれですか。 (2018年 愛媛県公立入試 類似)
- 瀬戸内海の海上交通を支配し、西日本各地の物資を独占的に扱っていたから。
 - 鎌倉幕府の執権から、東北地方の統治費用として多額の援助金を受けていたから。
 - 大陸から伝わった最新の農業技術を導入し、米の生産高が全国で最も多かったから。
 - この地域で産出される豊富な金や、馬などの北方特産物の取引によって莫大な富を得ていたから。
- 問5 平安時代末期の政治体制の変化について説明した次の文章のうち、白河上皇が「院政」を開始した主な目的や背景として最も適切なものはどれですか。 (2024年 岐阜県公立入試 類似)
- 遣唐使を廃止し、日本独自の国風文化をさらに発展させるための拠点とするため
 - 自分の子孫に天皇の位を確実に継がせ、藤原氏などの貴族による介入を防ぐため
 - 武士の不満を解消するために、有力な武士を重用して新しい軍事政権を作るため
 - 律令制度を再建し、班田収授法を徹底して税収を安定させるため
- 問6 平安時代に、万葉仮名から「かな文字」へと表記方法が変化したが、当時の社会や文化に与えた影響について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2019年 長野県公立入試 類似)
- かな文字は仏教の経典を日本語に翻訳するために作られたため、寺院を中心とした宗教文化が庶民の間で急速に広まった。
 - かな文字の普及によって、それまで漢字を学んでいた貴族たちが学問を捨て、武士による独自の文化が先行して発達した。
 - かな文字が発明されたことにより、中国から伝わった漢字は一切使われなくなり、公文書もすべてかな文字で書かれるようになった。
 - 日本独自の文字が作られたことで、日本人の感情や生活を表現しやすくなり、物語や日記などの国風文学が発展した。
- 問7 平安時代、藤原氏は天皇の補佐役として政治の実権を握りました。このうち、天皇が成人した後にその事務を助け、政務を補佐する役職を何と呼びますか。 (2020年 大阪府公立入試 類似)
- 太政大臣
 - 関白
 - 内覧
 - 摂政
- 問8 平安時代末期の平氏政権が行った対外政策について、その背景や目的を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2026年 福島県公立入試 類似)
- 元（モンゴル）の侵攻を未然に防ぐため、西日本の武士を動員して博多湾の沿岸に防壁を築いた。
 - 宋からの輸入品である貨幣（宋銭）を国内に流通させることで、貨幣経済による経済支配を狙った。
 - 遣唐使を廃止したことで途絶えていた大陸との国交を回復し、律令制度を再構築しようとした。
 - 足利義満が始めた勘合貿易の手法を取り入れ、海賊（倭寇）との区別を明確にすることで密貿易を抑止した。
- 問9 平安時代中期、社会への不安を背景に「阿弥陀如来を信じれば、死後に極楽浄土へ生まれ変わることができる」という浄土信仰が広まりました。この信仰に基づき、摂政ののちに関白となった藤原頼通が、極楽浄土の様子を再現しようとして宇治に建立した代表的な阿弥陀堂を選びなさい。 (2022年 岡山県公立入試 類似)
- 唐招提寺金堂
 - 平等院鳳凰堂
 - 中尊寺金色堂
 - 東大寺大仏殿
- 問10 飛鳥時代から平安時代にかけての日本と中国の王朝との外交に関する出来事について、時期の古いものから順に正しく並んでいるものはどれですか。 (2015年 富山県公立入試 類似)
- 小野妹子の派遣 → 最澄・空海の入唐 → 白村江の戦い → 遣唐使の停止
 - 小野妹子の派遣 → 白村江の戦い → 最澄・空海の入唐 → 遣唐使の停止
 - 最澄・空海の入唐 → 小野妹子の派遣 → 白村江の戦い → 遣唐使の停止
 - 白村江の戦い → 小野妹子の派遣 → 遣唐使の停止 → 最澄・空海の入唐
- 問11 平安時代の藤原道長と、平安時代末期の平清盛の権力掌握について述べた次の文のうち、その背景や手法として誤っているものはどれですか。 (2021年 埼玉県公立入試 類似)
- 藤原氏や平氏が外戚として政治を行ったのは、天皇が幼少の際などに「摂政」や「関白」として補佐する仕組みがあったからである。
 - 藤原道長は、自分の娘たちを次々と天皇の后に入れることで、複数の天皇の「外戚」として権力を独占した。
 - 藤原道長も平清盛も、天皇が位を譲った後の「上皇」として政治を行うことで、摂政や関白の権限を無力化させた。
 - 平清盛は、武力で政治を支配する一方で、藤原氏と同じように天皇と婚姻関係を結ぶことで政権の正当性を得ようとした。
- 問12 平安時代の政治状況について、ドイツ出身のエマさんと日本の高校生が会話をしています。この時代の地方政治の実態を説明する内容として正しいものはどれですか。 (2023年 奈良県公立入試 類似)
- 一部の有力な国司は受領と呼ばれ、任地に赴いて徴税に励む一方で、私的な蓄財を行うなど地方政治が混乱する要因となった。
 - 国司は中央から派遣される役人であったが、この時期にすべて武士へと置き換わり、封建的な主従関係が確立した。
 - 全国の農村で二毛作が一般化し、経済的に豊かになった農民が国司の権限を代行するようになった。
 - 地方政治の乱れを解決するため、天皇が直接地方を統治する親政が始まり、国司制度は完全に廃止された。
- 問13 10世紀の平安時代において、それまでの唐の文化の影響を強く受けた段階から、日本の風土や生活、日本人の感性に合わせた独自の特色を持つ文化が発展しました。この文化を何と呼びますか。 (2022年 大阪府公立入試 類似)
- 天平文化
 - 安土桃山文化
 - 鎌倉文化
 - 国風文化